生徒指導の機能をいかす道徳学習指導案

５年

１　主題　うばわれた自由　１－（３）　自由・規律　（道徳）

２　指導観

（１）児童の実態

本学級の子どもたちは,「きまりや約束は守らなければいけないものだ。」と思っている。しかし，守れなかったり，守らなかったりしてしまう現実があることも知っている。

また，自由についてアンケートをとったところ，何でも好きにできる状態を自由ととらえている児童がほとんどであった。このことからも分かるように，この時期の児童は，周囲の人から指図されることを嫌い，自分の都合で好き勝手ができることが自由だというように考えがちである。それだからこそ，他者の自由と衝突することにもなり，独善的自由へと結びつきやすい危険性がある。

そこで，このような実態の児童に，本題材を取り上げ，自由にするためには，規律が必要であることに気づき，その規律を主体的に受け入れていこうとする心情を育てたい。また、自由も規律も，他者からあたえられるものではなく，真に自由を獲得するには，自分の心を律する意志の力が必要であることに気づかせたいと考える。

（２）教材について

ジェラールとガリューという二人の主人公の自由に対する相反する考え方を通し，児童に自由と規律について考えさせようとする資料である。

「自由」とは，他から規制されることなく，自己の行為を自らの判断で決定し実行することである。したがって,「自由」は，人間としての個性を伸ばし，人間性を伸ばす原動力である。また,「自由」には，他の人々の自由をも尊重するということが，大前提として存在しなければならない。

しかし，主人公のジェラール王子は自分勝手と自由を混同し，王子に忠告したガリューを投獄してしまうのである。王子のように，自由と自分勝手を混同してしまう児童にとっては身近に感じられる資料であるとともに「本当の自由とは何か」を考えるに適した資料である。

（３）方法について

本主題は，自由にするためには，規律が必要であることに気づき，その規律を主体的に受け入れていこうとする心情を育てることをねらいとしている。

そこで, 導入では, 児童の自由にたいする考えをとらえるために事前にアンケート調査をし，それをもとに話し合い，本時学習のめあてをつかませたいと考える。

展開前段では，資料をもとにジェラールとガリューという二人の主人公の自由に対する相反する考え方を二人の立場に立ってとらえさせたいと考える。

展開後段では，ガリューの言った「本当の自由」の意味を一人ひとりに考えさせ，交流させたいと考える。交流を通して，友達の自由に対する考えと自分の考えを比べることで自己存在感を持たせ共感的人間関係育てたいと考える。

終末では，今までの自分の行動についてふり返らせ,「今日の学習で」を書き学習のまとめとしたい。

３　単元目標

○自由にするためには，規律が必要であることに気づき，その規律を主体的に受け入れていこうとする心情を育てる。

４．生徒指導の立場に立った単元の工夫
○自己存在感
・自由について，自分の考えや友達の考えを交流し認め合うことで，友達や自分を大切にすることができるようにする。
○共感的な人間関係
・主人公や友達の気持ちや考えに共感することを通して，相手の立場に立って考えられるようにする。
○自己決定
・主人公になって「自分がその立場だったらどうするか」考えることを通して，日常の生活場面でも自分の行動について考え，より良い行動をとることができるようにする。
５．単元計画
１時間
６．本時
平成１９年　１１月３日（土）　第２校時　　５年１組教室にて
７．本時目標
○自由にするためには，規律が必要であることに気づき，その規律を主体的に受け入れていこうとする心情を育てる。
８．規範意識を高めるための本時授業の工夫
○規範意識を高める本時の価値
本時は，自由にするためには，規律が必要であることに気づき，その規律を主体的に受けいれていこうとする心情を育てることをねらいとしている。
本教材を学習することで，
・自由とは自分勝手とはちがうこと
・自由は，束縛や拘束から解放されて自由に行動するたり，人に迷惑をかけたりすることではないこと
・本当の自由を獲得するには，自分の心を律する意志の力が必要であること
などについて考えることができる。このことは，規範意識を育てるうえで価値があると考える。
○自己存在感をもたせるための工夫
自己存在感は，集団の中で自分の力を発揮したり，役立ったり，大事にされたりしたときに持てるものである。
本時では，アンケートをもとにした交流や終末での「本当の自由」に対する考えの交流の中で、友達の思いや考えに共感したり，自分の答えに友達が共感してくれたりすることで自己存在感をもたせたい。
○評価の工夫
「自由について考えよう」という本時のめあてについて達成できたかどうか自己評価するとともに，日常の自分の行動をふり返らせ「今日の学習で」を書かせたいと考える。
９．本時指導の考え方
本時学習の導入では，「自由だと感じるとき」，自由になりたいと感じるとき」について，事前にアンケートを取っておき，それを下に「自由について考えよう」という本時のめあてをつかませたいと考える。
展開前段では，資料「うばわれた自由」を読んで，ジェラール王子やガリューの行動や気持ちを考えさせながら，ガリューの心の痛みや悔しさに共感させたいと考える。
展開後段では，ガリューの言った「本当の自由」の意味を一人ひとりに考えさせ，交流させたいと考える。交流を通して，友達の自由に対する考えと自分の考えを比べることで自己存在感を持たせたりや共感的人間関係育てたいと考える。
終末では，今までの自分の行動についてふり返らせ，「今日の学習で」をかき学習のまとめとしたい。

１０．準備
　教師　　挿絵，ワークシート

１１．本時の展開

学習活動と内容	生徒指導の立場に立った支援
1．「自由」について話し合い，本時学習のめあてをつかむ。 めあて **自由について考えよう。**	○「自由」について事前にアンケートをとっておき，その内容を話し合い，本時学習のめあてをつかませる。 【自己存在感】
2．「うばわれた自由」を読んで話し合う。 （1）ジェラール王子はどんな考えで狩をしたのか考える。 ・酔い覚ましに狩はちょうど良い。 ・自分は王子なのだから，何をしても大丈夫だ。	○自分勝手と自由とを混同する王子と自分たちの行動を比べて，共感させる。 【共感的人間関係】
（2）森の番人のガリューは，どんな考えでジェラール王子に忠告したのか考える。 ・相手は王子だから，逆らわないほうがいいかもしれないが，王子でもきまりは守ってもらいたい。 ・王子でも自分勝手な行動は絶対に許すわけにはいかない。	○森の番人のガリューの立場になって自分だったら忠告するかどうするか考えさせる。 【自己決定の場】
（3）忠告に腹を立てて，ガリューを投獄したジェラール王子の気持ちを考える。 ・森の番人が自分に指図するなんて許せない。 ・自分は王子なのだから，きまりを守る必要はない。 ・王子だから何でも自由にできる。	○ガリューを投獄したジェラール王子の立場になって自分だったらどうするか考える。 【自己決定の場】
（4）時がたって，裏切りにあって投獄されたジェラール王子の気持ちを考える。 ・わがままばかりしていたから，家来からも裏切られてしまった。 ・自分が勝手なことをしたから，国民もみんな勝手なことをし，国も乱れてしまった。	○投獄されたジェラール王子の立場になって自分だったらどんな気持ちになるか想像させる。 【自己存在感】
3．「本当の自由」どんなことだと思うかワークシートに書く。	○自分の考える「本当の自由」について書かせる。 【自己決定の場】
4．「本当の自由」について話し合う。 ○班で話し合う。 ○全体で話し合う。	○自分の考える「本当の自由」と友達の考える「本当の自由」について似ているころや違うところを話し合わせる。 【自己決定の場】 【共感的人間関係】 【自己存在感】
5．「今日の学習で」を書き，本時学習のまとめをする。	○ワークシートに学習の感想・自己評価を書かせる。

１２．資料

１３．結果と考察

○児童に事前にアンケートをとって，それをもとに話し合い活動を行ったことで，「ぼくも同じだ。」とか「そう，そう。」など，友達の思いや考えに共感したり，自分の答えに友達が共感してくれたことで，活発に交流ができ学習への意欲付けができた。

○資料は，王子と森の番人の話なので児童の日常とはかけ離れていたが，わがままな王子の行動に対して憤ったり，森の番人のガリューに同情したり共感したりすることはできていた。また，王子がわがままな行動の結果，牢屋に入れられた場面では，やっぱりこうなってほっとした様子だった。そういう意味からも，この教材はこの時期の児童にはふさわしい内容だったといえる。

○資料の終末で，ガリューが「本当の自由を大切にしてまいりましょう。」と王子に言って去っていった場面から，「本当の自由」とはどんなことか考えを書かせた。考えを書く場面を絞ったので，交流する時間が十分確保できたのでよかった。

○「本当の自由」について，多くの児童は，「みんながきまりを守りながら，自分のやりたいことできること。」など，きまりがある中での自由を「本当の自由」と考えていたが，児童の中に，「きまりがなくてもみんなが困らず，好きなことをできること。」と考えている児童がいた。その児童は教師からみると規範意識の高いと思われる児童だったので，以外だった。その児童の考えを要約すると「規範意識の高い集団では，きまりはなくてもみんなが自由にできる」ということらしい。進んだ考えだ。続けて話し合う中で，やはり「きまりは必要。」という児童と「きまりはなくてもいい。」と考えに共感し始めた児童が出てきた。

しかし，本時では，そのことについて，話し合う時間が確保できなかったので，次の機会に続きをと考えてそこまでで話し合いを終わった。しかし，時間がたつとそのときの児童の思考や意欲が継続せず，それについての意見の交流はできないままとなった。

今後，規範意識を高めさせるためにも，「本当の自由」を獲得させるためにも，自分の心を律する意志の力が必要であることを児童に理解させることの重要性を感じた。